

平成 30 年度

教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価の結果に関する報告書

令和元年 8 月
上峰町教育委員会

目 次

<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要>	1
1 根拠法	
2 点検及び評価の内容	
3 点検及び評価の方法	
4 点検及び評価の経過	
5 今後の予定	
<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果>	2
1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況	2
（1）上峰町教育委員会の運営状況	2
① 教育委員会	
② 教育委員会事務局	
（2）上峰町教育委員会の活動状況	4
① 教育委員会会議の開催状況と審議概要	
② 活動の状況	
・ 総合教育会議への出席	
・ 教育現場への訪問	
・ 視察・研修会等への参加	
・ 各種会議・行事等への出席	
2 平成30年度主な事業・取組の評価シート	7
（上峰まちづくりプラン後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組）	
（1）教育課所管分	7
（2）生涯学習課所管分	15
（3）文化課所管分	23

<教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の概要>

1 根拠法：「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の内容

- (1) 平成30年度上峰町教育委員会の運営及び活動状況
- (2) 上峰まちづくりプラン後期分野別計画に掲げる主要施策及び主な取組

3 点検及び評価の方法

上峰町教育委員会の運営及び活動状況、主要施策及び主な取組について、実績並びに成果と課題等を取りまとめ自己評価を行った後、教育に関する学識経験者（重松俊宏氏：元中学校校長、元佐賀県教育庁三神教育事務所社会教育担当指導主事）からの外部評価。

4 点検及び評価の経過

- ・ 令和元年7月初旬～中旬 平成30年度主な事業・取組の評価シート作成
- ・ 令和元年7月中旬 学識経験者への外部評価の依頼
- ・ 令和元年7月中旬～下旬 自己評価の実施
- ・ 令和元年7月下旬～8月上旬 学識経験者による外部評価の実施
- ・ 令和元年8月上旬 点検評価報告書の作成
- ・ 令和元年8月下旬臨時教育委員会 点検評価報告書の審議及び承認

5 今後の予定

- ・ 令和元年9月上旬 上峰町議会に点検評価報告書を提出
- ・ 令和元年9月上旬 点検評価報告書を上峰町教育委員会ホームページにて公表

＜教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の結果＞

1 上峰町教育委員会の運営及び活動状況

(1) 上峰町教育委員会の運営状況

① 教育委員会

役職名	氏名	任期(当初就任年月日)
教育長	野口敏雄	H30. 4. 2~H33. 3. 31 (H30. 4. 2)
教育長職務代理者	平川未代	H30. 4. 1~H34. 3. 31 (H30. 4. 1)
教育委員	時津昌昭	H28. 10. 14~H32. 3. 31 (H23. 6. 21)
教育委員	原楨裕子	H27. 10. 27~H31. 3. 31 (H23. 6. 21)
教育委員	田中清美	H30. 10. 1~H34. 3. 31 (H23. 12. 19)
教育委員	馬場紘彦	H28. 10. 27~H32. 3. 31 (H24. 10. 27)
教育委員	原晋介	H27. 4. 1~H31. 3. 31 (H27. 4. 1)
教育委員	江頭千代美	H29. 4. 1~H33. 3. 31 (H27. 4. 1)
教育委員	平川利彦	H29. 4. 1~H33. 3. 31 (H27. 4. 1)

平成31年3月31日現在

② 教育委員会事務局

課名	担当事務
教育課 (14人) 放課後児童ク ラブ支援員 6人を含む	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育委員会の会議に関する事。 2 事務局、学校その他の教育機関の職員の任免、分限及び懲戒に関する事。 3 教育予算その他議会の議決を経るべき議案に対する意見の申出に関する事。 4 工事計画の策定及び教育財産の取得の申出に関する事。 5 教育機関の設置、管理及び廃止に関する事。 6 教育財産の管理に関する事。 7 教育委員会規則の制定及び改廃に関する事。 8 請願、陳情書等の処理に関する事。 9 公告式に関する事。 10 公印の看守に関する事。 11 文書の收受、発送及び編さんに関する事。 12 学校給食に関する事。 13 児童及び生徒の就学に関する事。 14 その他の学校教育に関する事。 15 いじめを根絶する取組に関する事。 16 子ども安全パトロールに関する事。

	<ul style="list-style-type: none"> 17 放課後児童健全育成事業及び留守家庭児童健全育成事業に関すること。 18 その他の子どもの安全に関すること。 19 総合教育会議に関すること。 20 前各号に掲げるもののほか、他係の所掌に属しないこと。 21 県費負担教職員の服務に関すること。 22 県費負担教職員の研修及び福利厚生に関すること。 23 県費負担教職員の任免、分限及び懲戒の内申に関すること。 24 学級編制に関すること。 25 教育内容及びその取扱いに関すること。 26 教科書その他教材の取扱いに関すること。 27 学校保健に関すること。 28 学校安全に関すること。 29 その他の教育指導に関すること。
生涯学習課 (7人)	<ul style="list-style-type: none"> 1 社会教育機関の運営に関すること。 2 生涯学習審議会委員の任命並びにそれらの会議に関すること。 3 社会教育関係団体の指導育成に関すること。 4 講座の開設及び討論会、講習会、研修会、講演会、展示会その他の集会の開催並びにこれらの奨励に関すること。 5 社会教育資料の刊行及び配布に関すること。 6 社会教育のために必要な設備、器械及び資料の提供に関すること。 7 情報の交換及び調査研究に関すること。 8 視聴覚教育に関すること。 9 視聴覚ライブラリーに関すること。 10 青少年育成に関すること。 11 地域のおじさん、おばさん及び110番の家に関すること。 12 命の大切さ、子どもたちの心を鍛える事業に関すること。 13 子どもの悩み相談室に関すること。 14 その他の社会教育に関すること。 15 スポーツ振興審議会及びスポーツ推進委員会の委員の任命及びそれらの会議に関すること。 16 体育スポーツ指導者養成及び体制の確立に関すること。 17 体育スポーツ関係団体の育成に関すること。 18 住民スポーツの生活化に関すること。 19 スポーツ事故に関すること。 20 スポーツ施設及び設備に関すること。 21 前各号に掲げるもののほか、スポーツ振興に関すること。

文化課 (7人) 図書司書(嘱託)2人を含む	1 文化財の保護に関すること。 2 図書館に関すること。 3 歴史資料の保管及び整理に関すること。 4 文化及び芸術の向上に関すること。 5 その他文化の伝承に関すること。
------------------------------	--

平成31年3月31日現在

(2) 上峰町教育委員会の活動状況

① 教育委員会会議の開催状況と審議概要

会議種別	開催期日	主な審議事項
臨時会	H30. 4. 2	教職員の平成30年度人事異動報告
定例会	H30. 4. 24	上峰町生涯学習審議会委員・上峰町放課後子どもプラン推進事業運営委員の委嘱 要保護・準要保護児童生徒の認定 平成30年度6月補正予算について 平成30年度中学校放課後補充学習事業の計画
定例会	H30. 5. 21	準要保護児童生徒の認定 上峰町英語検定料補助事業(案)について
定例会	H30. 6. 26	上峰町教育委員会管理施設の整備について H29教育事務の管理及び執行の状況の点検・評価について
定例会	H30. 7. 24	平成30年度9月補正予算について 小・中学校からの1学期経営報告並びに協議
臨時会	H30. 8. 6	H29年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の結果に関する報告書について 教職員の交通事故等に係る服務上の措置に関する運用基準について
臨時会	H30. 8. 20	平成31年度使用教科用図書の採択について
定例会	H30. 9. 27	上峰町私立幼稚園就園奨励費補助金交付に関する規則の一部を改正する規則(案) 上峰町図書館の管理及び運営に関する規則の一部を改正する規則(案) 佐賀県市町教育委員会連合会役員組織について
定例会	H30. 10. 23	平成30年度全国学力・学習状況調査結果公表 上峰町「運動部活動の在り方に関する方針」(案) 教職員の交通事故等に係る服務上措置について
臨時会	H30. 11. 8	学校給食異物混入事案について

定例会	H30. 11. 27	平成 30 年度 11 月以降の予算執行について 上峰町太古木等検討委員会規則の一部を改正する規則 (案) について
定例会	H31. 1. 22	上峰町教育委員会視察研修計画について 上峰町立学校の施設整備について
定例会	H31. 2. 27	小・中学校教職員管理職付議について 平成 31 年度教育方針について
定例会	H31. 3. 27	就学援助認定について 公民館長の選任について 平成 30 年度小・中学校学校運営報告

② 活動の状況

・ 総合教育会議への出席

開催期日	協議事項
第 1 回総合教育会議 H30. 8. 6	上峰町まちづくりプラン後期分野別計画の説明 上峰町教育大綱の策定
第 2 回総合教育会議 H31. 3. 27	いじめの定義、実態と対策について 上峰町の取組（未然防止、見逃さない体制づくり）

・ 教育現場への訪問

期 日	訪問先	期 日	訪問先
H30. 4. 21	小学校オープンスクール	H30. 11. 11	小学校日曜授業参観 上小祭
H30. 4. 28	中学校オープンスクール	H30. 11. 17	中学校授業参観高校入試説明会
H30. 6. 9	小学校オープンスクール	H30. 11. 24	小学校土曜開校
H30. 6. 16	中学校オープンスクール	H30. 12. 10	小学校県教育長訪問
H30. 7. 24	ひよこ保育園訪問	H30. 12. 18	かみみね幼稚園訪問
H30. 9. 7	小学校絵本読み聞かせ	H31. 3. 8	中学校卒業証書授与式
H30. 10. 1	中学校教育事務所訪問	H31. 3. 15	小学校卒業証書授与式
H30. 10. 23	ひかりこども園訪問	H31. 3. 16	かみみね幼稚園卒園式
H30. 10. 25	小学校町教育委員会訪問	H31. 3. 21	ひかりこども園卒園式

・ 視察・研修会等への参加

期 日	視察先・研修会名
H30. 4. 27	佐賀県市町教育長会連合会春季定期総会・研修会
H30. 5. 9～5. 11	全国町村教育長会定期総会・研究大会
H30. 5. 25	佐賀県町教育長会研修会
H30. 7. 2	佐賀県市町教委連定期総会・研修会

H30. 7. 18	三神地区教育委員会連絡協議会総会・研修会
H30. 10. 30	佐賀県市町教育長会連合会秋季総会・研修会
H31. 2. 8～9	上峰町教育委員会視察研修（長洲町、山鹿市）

・ 各種会議・行事等への出席

期 日	会議名・行事名	
H30. 4. 2	教職員辞令交付式	
H30. 4. 7	かみみね幼稚園入園式	
H30. 4. 11	小・中学校入学式	
H30. 4. 15	町民体力づくり歩こう大会	
H30. 6. 2	交通安全子供自転車鳥栖・三養基大会	
H30. 6. 10	町子どもクラブドッチビー大会	
H30. 6. 26	小学校学習田田植え	
H30. 7. 2～5	町青少年育成地区懇談会 14 分館（台風のため 5 分館中止）	
H30. 7. 8	分館対抗アジャタ大会	
H30. 7. 21～22	中体連三養基・神埼地区大会	
H30. 7. 27～29	町青少年育成サマーキャンプ（黒髪少年自然の家）	
H30. 8. 26	上峰町近圏少年剣道錬成大会（上峰中）	
H30. 9. 10	中学校体育大会（9. 8 の延期分）	
H30. 9. 15	ひかりこども園家族大運動会	
H30. 9. 29	かみみね幼稚園運動会	
H30. 10. 2	小学校体育大会（9. 30 の延期分）	
H30. 10. 7	町民体力づくり体育大会	
H30. 10. 27	中学校文化発表会	
H30. 10. 28	肥前さが幕末維新博「上峰町の日」	
H30. 11. 1～3	上峰町民文化祭	
H30. 11. 6	子ども議会	
H30. 11. 9	小学校学習田稲文字稲刈り	
H30. 11. 27	町青少年育成大会講演会	
H30. 11. 28	小学校 5～6 年生餅つき体験	
H30. 12. 8	町スポーツ少年団フェスタ	
H30. 12. 22	ソフトバンク野球教室	
H31. 1. 13	町成人式	
H31. 1. 22	学校長意見交換会（学校経営年間総括）	
H31. 2. 24	町つばきの森トレイル	
H31. 3. 22	小中学校教職員辞任式	

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	スクールカウンセラー配置事業			所管課	教育課			
				費目	事務局費			
事業費 (千円)	1,600	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				258			1,342	
目標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	いじめや不登校等、生徒指導上の諸問題への対応は、学校において重要な課題である。 このため、児童・生徒の臨床心理に関して高度な専門的知識・経験を有するスクールカウンセラーを派遣し、もって学校におけるカウンセリング機能の充実を図る。							
実績等	<p>小学校239時間、中学校241時間、スクールカウンセラーによる児童・生徒や保護者への相談活動、教職員への支援・助言、関係機関や地域の援助機関との連携等を行った。</p> <p>対象者別件数 児童・生徒 107件、保護者 46件、教職員 86件</p> <p>事業費内訳 県費補助事業 155時間 775千円 (小学校) 町費単独事業 165時間 825千円 (小・中学校) 県費単独事業 160時間 - (中学校)</p>							
成果と課題	<p>不登校傾向や対人関係の問題についてのカウンセリングは継続も含め希望者も多く、また、問題改善の方向性も出るなど成果を上げた。</p> <p>配慮を要する児童・生徒やその保護者については、ケース会議を実施するが、その中でスクールカウンセラーとの連携は重要な位置を占めており、スクールカウンセラーの助言は重要な示唆を与えてくれる。</p> <p>スクールカウンセラーに繋がらないケースもあり、担任以外とはかかわりを持つことを好まない保護者の支援や保護者が相談に行きやすい時間の設定が引き続きの課題である。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		県費補助事業に加え、町費単独及び県費単独事業の加算により、多くの案件をカウンセリングすることができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		不登校をはじめ対人関係等、問題の改善に繋がっており、大きく評価できる。さらに、カウンセラー配置時間の確保に努めてほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進																																							
事業名 ・ 取組名	特別支援教育就学奨励費補助 要・準要保護就学援助			所管課	教育課																																							
				費目	教育振興費																																							
事業費 (千円)	8,611	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源																																					
			633				7,978																																					
目 標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。																																											
目的や内容	特別支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を与えることにより義務教育の円滑な実施に資するため、次に掲げる費目を予算の範囲内で援助する。 (1)学用品費等、(2)校外活動費(宿泊を伴うもの)、(3)修学旅行費、(4)新人学児童生徒学用品費、(5)医療費、(6)学校給食費																																											
実績等	<p>特別支援教育を要し、又は経済的な理由によって就学困難な児童又は生徒の保護者に対し、必要な援助を与えた。</p> <p>特別支援教育就学奨励費補助事業</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校</td> <td>25人</td> <td>907,712円</td> <td>(前年度</td> <td>19人</td> <td>607,514円)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>6人</td> <td>343,145円</td> <td>(前年度</td> <td>6人</td> <td>304,065円)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31人</td> <td>1,250,857円</td> <td>(前年度</td> <td>25人</td> <td>911,579円)</td> </tr> </table> <p>要・準要保護就学援助</p> <table border="0"> <tr> <td>小学校</td> <td>56人</td> <td>3,917,967円</td> <td>(前年度</td> <td>48人</td> <td>3,253,887円)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>31人</td> <td>3,442,081円</td> <td>(前年度</td> <td>27人</td> <td>2,668,527円)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>87人</td> <td>7,360,048円</td> <td>(前年度</td> <td>75人</td> <td>5,922,414円)</td> </tr> </table>								小学校	25人	907,712円	(前年度	19人	607,514円)	中学校	6人	343,145円	(前年度	6人	304,065円)	計	31人	1,250,857円	(前年度	25人	911,579円)	小学校	56人	3,917,967円	(前年度	48人	3,253,887円)	中学校	31人	3,442,081円	(前年度	27人	2,668,527円)	計	87人	7,360,048円	(前年度	75人	5,922,414円)
小学校	25人	907,712円	(前年度	19人	607,514円)																																							
中学校	6人	343,145円	(前年度	6人	304,065円)																																							
計	31人	1,250,857円	(前年度	25人	911,579円)																																							
小学校	56人	3,917,967円	(前年度	48人	3,253,887円)																																							
中学校	31人	3,442,081円	(前年度	27人	2,668,527円)																																							
計	87人	7,360,048円	(前年度	75人	5,922,414円)																																							
成果と課題	<p>全児童・生徒の保護者宛、制度を知らせるチラシを配布することで制度の周知徹底を図った。認定に当たっても所得金額のみで一律に判断するのではなく、児童・生徒の日常生活及び家庭の諸事情について情報収集を行うとともに、申告による所得確定後に再度調査を行い認定の確定を行った。</p> <p>認定にあつては総合的に判断して認定することとなっており、周知及び受付時において今後も丁寧な取り扱いを徹底する。</p>																																											
自己評価	評価の結果		評価の理由																																									
	達成		全児童生徒の保護者への周知徹底により、広く制度を活用することができた。 認定においても、教育委員会で適切に審議が行えるよう詳細な資料の作成及び情報収集に努めた。																																									
	概ね達成																																											
	やや不十分																																											
不十分																																												
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項																																									
	達成		年々増加傾向にあり、適切な教育を受けられるように、体制をさらに充実させてほしい。																																									
	概ね達成																																											
	やや不十分																																											
不十分																																												

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	放課後児童健全育成事業			所管課	教育課			
				費目	児童育成費			
事業費 (千円)	6,389	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			643	643		4,458	645	
目 標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	次世代を担う児童の健全育成を図るため、昼間保護者のいない家庭の小学校児童に対し、放課後及び長期休業中に学童クラブにおいて保護及び育成を行う。							
実績等	<p>上峰町放課後児童クラブにおいて、120名の児童に対し、放課後及び長期休業中に保護及び育成を実施した。</p> <p>指導員6人態勢で運営するとともに、指導員に対し自主研修会を年1回実施した。また、指導員においては「放課後児童支援員」の資格を取得すべく県主催の研修会に参加し、3名が資格を取得した。</p> <p>さらに、次年度法人委託にむけ住民課と連携し、委託に係る内容等の協議に努めた。</p>							
成果と課題	<p>定員の上限を超えて保育しているが、施設の床面積が限られており定数上十分な面積が確保できていない。</p> <p>保護者負担金については、未納が無いよう月々の催促、徴収に努め、今年度においても徴収率100%を達成できた。</p> <p>施設床面積 143.6㎡ 面積要件 一人当たり概ね1.65㎡以上 要件上の定員 87名</p>							
自己評価	評価の結果	評価の理由						
	達成	限られた施設の中でも事故が無いように安全安心に努めるとともに、待機児童が無いよう希望者全員を保護・育成することができた。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項						
	達成	待機児童もなく、保護・育成が十分に行われている。施設の確保・充実に努めてほしい。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	小学校オンライン英会話委託 中学校放課後補充学習委託			所管課	教育課			
				費目	先進的教育推進費			
事業費 (千円)	13,656	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							13,656	
目標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	<p>小学校オンライン英会話については、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学5、6年生の外国語活動の時間において、オンライン英会話授業を実施した。</p> <p>中学校の補充学習についても基礎学力の定着と苦手分野克服を図るため、中学1、3年生を対象に放課後時間において補充学習を実施している。</p>							
実績等	<p>小学校オンライン英会話については、9月から週1回、5、6年生を対象に外国語活動の時間にフィリピンの講師との15分間(年間で児童ひとりあたり10コマ)のオンラインによるマンツーマンの英会話学習を行った。</p> <p>中学校の補充学習においては既存の塾や習い事への希望についても対応できるよう、スタディークーポンの手法を取り入れた。ひとりあたり3万円分の予算を確保し、校内での放課後補充学習においても前年度までの5コマから10コマへと事業の充実を図った。</p>							
成果と課題	<p>小学校においては、チューターとの学習の経験を重ねることで、英語の発音を聞く活動に慣れ、外国人に話すことへの抵抗が減ってきた。</p> <p>既習の単語や言い回しを用いて、チューターとのコミュニケーションを取れるようになっており、日常英会話の基本的な表現を身につけた。中学生になっての佐賀県学習状況調査でも佐賀県の平均正答率を約10ポイント上回る成績をおさめている。</p> <p>中学校の放課後補充学習においては、学習意欲の向上につながり、苦手な部分を集中して取り組むことで理解の深まりにつながった。さらにスタディークーポン方式により生徒の希望する学習方法により学習意欲の向上につながった。</p> <p>中1) 夏季講習60名、塾16名、習い事20名、未利用1名(延97名) 中3) 冬季講習32人、塾47人、習い事10人、未利用3名(延92名)</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		<p>小学校でのオンライン英会話自信となり、佐賀県学習状況調査では英語を含め佐賀県平均を上回ることができた。スタディークーポン方式も保護者の理解をいただき効率よく活用いただいた。</p>					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		<p>新たな取組であるスタディークーポン制をはじめ、他の市町にない特色ある事業である。学力向上にも繋がっており、大きく評価できる。</p>					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生きる力を育む教育活動の推進			
事業名 ・ 取組名	学校給食費補助 おいしい給食補助 学校給食調理業務委託			所管課	教育課			
				費目	事務局費、学校給食費			
事業費 (千円)	72,954	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							72,954	
目 標	一人ひとりが豊かな人間性を培い、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど生きる力を育むとともに、国際的視野に立ち、進展する社会に創意を持って対応し、文化の創造や産業の振興など、社会や地域の発展に貢献できるよう、心身ともにたくましい子どもの育成に努める。							
目的や内容	学校給食は児童・生徒の心身の健全な発達に資するものであり、かつ、児童・生徒の食に関する正しい理解と適切な判断力を養う上で重要な役割を果たすものである。 学校給食及び学校給食を活用した食に関する指導の実施により、学校給食の充実及び学校における食育の推進を図る。							
実績等	<p>学校給食及び食育の指導を次のとおり実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 適切な栄養の摂取による健康の保持増進。 ② 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、望ましい食習慣を養う。 ③ 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養う。 ④ 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養う。 ⑤ 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養う。 ⑥ 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深める。 ⑦ 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導く。 							
成果と課題	<p>栄養教諭の配置により、適切な栄養の摂取による健康の保持増進に努めることができた。さらに、食物アレルギーに対して、児童・生徒の個別の状況に応じて対応した。</p> <p>調理機器のボルト(直径8mm、全長63mm)が脱落し、調理の過程を通り過ぎ食缶へと混入する事案が起ってしまった。調理前後の機械器具点検の更なる強化、実質的なマニュアルの整備を図った。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		異物混入は永遠の課題であると認識している。さらに、学校給食の本来的目的である食育への取組について引き続き努力したい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		学校給食は、安全・安心が第一であり、異物混入がないよう細心の注意を払ってほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	教職員の資質の向上			
事業名 ・ 取組名	部活動指導員活用研究事業			所管課	教育課			
				費目	教育振興費			
事業費 (千円)	208	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				138			70	
目 標	研修や研究活動の充実を促進し、使命感にあふれ、実践的な技術・指導力を持つ教職員の育成に努める。							
目的や内容	補助事業である部活動指導員を活用することで、教員の負担軽減を図るとともに、安全かつ効率的・効果的な運営を目指し持続可能な部活動を行う。							
実績等	中学校野球部の部活動指導員として1名を配置し、教職員の負担軽減を図った。特にアンケート結果からは、3年生の教職員の入試事務においてかなりの負担軽減を図ることができた。							
成果と課題	<p>専門的な指導員により、軟式野球部の生徒の意欲や技術が向上した。生徒へのアンケート調査においても、野球部全員が「とても楽しい」、「楽しい」と回答している。さらに、「様々な技術を身に付けることができた」、「積極性が身に付いた」と回答しており、部活動指導員の導入は生徒の意欲や技術の向上に大きく貢献している。また、指導員が顧問と保護者との橋渡しを担い、この結果、部活動に対する保護者の理解が高まり協力体制が構築された。なにより、部活動指導員の理解により、3年生を担当する顧問の多忙化の解消と多忙感の軽減に大きな効果があった。</p> <p>今後の補助事業の継続とともに、部活動指導員の継続した確保が課題である。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		補助事業を活用し、中学校と教育委員会の連携のもと部活動指導に係る教職員の負担軽減を図ることができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		部活動の充実に繋がっており、また、教員の負担軽減にも繋がっていることから、今後も継続・拡充を図ってほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	学校施設・設備の整備充実			
事業名 ・ 取組名	防音関連維持事業 中学校階段昇降機設置工事 空調設備・トイレ洋式化工事設計			所管課	教育課			
				費目	施設整備費、学校管理費			
事業費 (千円)	12,903	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			3,756				9,147	
目標	学校施設・設備の老朽化や劣化への対応や、障がいのある児童・生徒のための施設のバリアフリー化を図るとともに、ICT利活用教育のための情報機器の充実、学校図書館の蔵書の充実など、設備や教材・教具の整備充実を図る。							
目的や内容	老朽化や劣化する学校施設及び設備について、適切な維持管理に努め安全安心な学校生活を提供する。 通年の維持管理に加え、障がいのある生徒を受け入れるべく多目的トイレに加え階段昇降機を設置する。							
実績等	<p>小・中学校の維持管理について、次のとおり実施した。さらに、空調設備設置工事、トイレ洋式化工事を推進すべく設計業務を委託した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防音関連維持事業(空調電気代助成) 5,861千円 ・中学校階段昇降機設置工事 2,700千円 ・小学校北校舎空調設備設置工事設計業務委託 1,501千円 ・小中学校トイレ洋式化工事実施設計業務委託 2,841千円 <p>繰越免許(ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校北校舎空調設備整備事業 42,865千円 							
成果と課題	<p>中学校において前年度の多目的トイレ設置に続き、階段昇降機設置工事を実施するなどバリアフリー化を推進した。</p> <p>老朽化する小学校北校舎の空調設備について、国のブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金の採択を受けることができた。議会の議決を得て予算を翌年度へ繰り越し、平成31年度に工事を実施する。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		小・中学校の施設・設備について、必要に応じ順次維持管理することが出来た。 国の臨時特例交付金についても採択いただき次年度へ向け準備をすることができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		小・中学校ともに校舎施設・設備の老朽化が進むことから、計画的に対応を図ってほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	開かれた、信頼される学校づくり			
事業名 ・ 取組名	学校家庭地域の連携協力推進事業			所管課	教育課			
				費目	先進的教育推進費			
事業費 (千円)	278	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				184			94	
目 標	家庭や地域の声を反映した学校運営の推進、学校評価の実施・公表等により、開かれた、信頼される学校づくりを推進する。							
目的や内容	家庭や地域の教育力の低下が懸念される中で、いじめや不登校等の社会的課題に対応し、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすとともに、三者が連携して学校教育を進めていく。							
実績等	地域未来塾について、中学校において年間を通して開設した。中学校全学年を対象に希望者に対し、毎週水曜日の放課後、1時間程度、タブレットパソコンによるドリル学習や学校の宿題等、自主学習を行った。							
成果と課題	<p>学習習慣の定着という点で学校の学習と家庭学習の橋渡しができる。また、こういう場を提供することで学習環境の整備に繋がっている。</p> <p>課題として、放課後の時間を活用しているため部活動の兼ね合いで参加者が少ない。</p> <p>家庭学習の重要性を推奨するとともに、自主学習の定着推進を図る。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		補助事業を活用し、学校・家庭・地域が連携しながら生徒の学習習慣の定着を構築することができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		参加者を増やすための方策をさらに講じる必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生涯学習関連施設の適正管理・利用促進			
事業名 ・ 取組名	町民センターの管理・運営			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育施設費			
事業費 (千円)	36,529	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
						2,761	33,768	
目 標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。							
目的や内容	町民センターの適正管理及びサービスの向上に努め、利用促進を図る。町民センターのトイレ洋式化の改修工事を行い、施設的环境を整備する。また、施設の使用については、引き続き利用促進を図るために、丁寧な対応を行い気持ちよく利用して頂く。							
実績等	町民センターについては、トイレ洋式化の改修工事を行った。また、利用者が快適に利用するためにより丁寧な対応を行うことができた。利用者数は、平成29年度31,706名から平成30年度35,042名と増加した。 平成30年度から新たに、町民センターの一部屋(視聴覚室)を小中学生並びに高校生等の自主学習の部屋として提供し、土・日の休業日も含め広く開放するようになった。							
成果と課題	町民センターの維持管理及びユニバーサルデザイン化の推進として、すべての町民が、安全・安心に利用できる環境づくりに向け、トイレ洋式化の改修工事を行ったが、今後も施設全体の経年劣化が進んでいくので、日頃より点検を行う必要がある。また今後についても町民が利用しやすく、人が集まる場所となるよう自主学習の部屋を含め施設利用の広報活動を行う必要がある。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		平成30年度当初の計画どおり、トイレ洋式化の改修工事が完了し、ユニバーサルデザイン化の推進により、すべての町民が安全安心に利用できる環境づくりを行い、町民センター利用者数の増加につなげることができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		利用者が大きく増加した点を評価したい。今後も人が集まる場所となるように努力してほしい。施設の老朽化が進むことから、計画的に対応を図る必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策		町民の自主的な学習活動の活発化	
事業名 ・ 取組名	ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー			所管課	生涯学習課		
				費目	社会教育総務費		
事業費 (千円)	392	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源
							392
目 標	住民一人ひとりが生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、そのその成果をそれぞれの生活に生かすことができる生涯学習社会の実現を目指す。特に、すべての町民がニーズに応じて自主的に学習活動を行い、その成果が適切に評価され、自らの生活はもとより、地域社会へ還元される学習環境づくりを図る。						
目的や内容	町民ニーズの動向や本町の特色・資源、社会・経済情勢の変化を踏まえ、特色ある講座・教室として、ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を行い、参加して楽しかった、勉強になったなど、参加して良かったと言っていただけるような取組を行う。						
実績等	ふれ愛・粋いきセミナー、女性セミナー講座・教室を17回行い、延べ430名の参加があった。毎年好評の韓国料理を作ったり、相続・遺言と悪徳商法や交通安全・振り込み詐欺等の身近な啓発講座、地元内科医による健康教室、山口県下関市、長門市の観光名所を視察するバス研修、佐賀城本丸歴史副館長による「佐賀の偉人伝」の講話など、様々な講座・教室を開催した。						
成果と課題	計画どおり年17回の講座や教室を行ったが、参加者の増加にはつながらなかった。今後については、内容を検討し、見直しを行いながら、町民のニーズに沿った講座や教室を行う必要がある。						
自己評価	評価の結果		評価の理由				
	達成		計画どおり年17回の講座や教室を開催することができた。ただ、参加者は525名から430名と減少しており、内容の精査・充実に努める必要がある。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項				
	達成		講座・教室の検討や見直しを図り、参加者の増加に繋げてほしい。				
	概ね達成						
	やや不十分						
不十分							

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成			
事業名 ・ 取組名	青少年育成地区懇談会			所管課	生涯学習課			
				費目				
事業費 (千円)	0	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、各種の健全育成活動を積極的に推進していく。							
目的や内容	地域のみんなで、子どもたちを守り育てるためにはどうすれば良いのかを考えるために、19分館ごとに特に夏季休業を前に懇談会を開催し、子どもたちを巡る課題を共有し、地域住民の意識を高める。							
実績等	7月2日(月)～5日(木)の4日間予定していたが、7月3日は台風接近により5分館の開催を中止し、14分館にて開催した。5分館中止に伴い、総参加者数322名で、前年度より125名ほど減少している。地域での子どもの過ごし方や地域の行事について話したり、危険な場所の確認、地域の大人と子どものコミュニケーションのとり方の検討など、いろいろな話し合いができ、子どもたちをどうやって地域で育てるかを考える懇談ができた。							
成果と課題	年に1回、夏休み前に実施して、地域の子どもの育て方について考える機会を設けることにより、子どもの健全育成への意識が高く持てるようになると考えられる。より多くの方々に参加していただくために、魅力ある懇談会にしていく必要がある。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		台風の接近により、5分館では中止したが、14分館にて地区懇談会を実施し、青少年育成の意識の向上ができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		分館の協力により、全分館で開催が計画されていることは大いに評価できる。参加者を増やす様々な手立てを講じてほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成			
事業名 ・ 取組名	あいさつ日本一運動をはじめとする 健全な社会環境づくり			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育総務費			
事業費 (千円)	462	財 源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							462	
目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、各種の健全育成活動を積極的に推進していく。							
目的や内容	あいさつすることが人と人との関わりの始まりであり、コミュニケーションの始まりでもあることから、町民一人ひとりがあいさつの意識を上げ、地域の雰囲気向上を目指すために、あいさつ日本一運動に取り組む。 また地域の現状を知るために、町内青少年防犯巡回パトロール活動により、小売店等に出向いて有害図書や酒・たばこの取扱状況を把握し、青少年への対応をお願いするなど健全な社会環境づくりを進める。							
実績等	小・中学校を中心に、校門で先生方や児童・生徒があいさつ運動をしたり、地域の方々が通学路で交通誘導及び挨拶運動を行った。子どもたちは積極的にあいさつができています。 また、防犯パトロールや小売店への訪問を行ったが、指導が必要な子どもたちはいなかった。							
成果と課題	子どもたちから大人の方へ積極的にあいさつする子どもが増えているように感じられる。また、パトロール中に指導する子どもはいなかった。 今後も、あいさつの意識の向上に向け継続していく必要がある。また、防犯パトロールは、子どもたちの集まりそうな場所や危険な場所等を大人が把握できる利点があり、引き続き実施する。また、犯罪被害防止と地域住民の意識高揚を図るため、青パト活動の充実実施を検討する必要がある。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		地域・学校・行政が連携した青少年育成活動が実施できた。 青パト活動の充実実施に向けた検討は進んでいない。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		全国的な犯罪被害事件の発生状況から、青パト活動の充実した実施に向け、早急に検討をお願いしたい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	青少年健全育成			
事業名 ・ 取組名	地域の教育力の向上			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育総務費			
事業費 (千円)	391	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
				258			133	
目 標	青少年が家庭や地域における人のつながりを大切にする心や人を思いやる心、命を大切にする心を持ち、心身ともに健全に育つよう、家庭・学校・地域・行政等の連携強化のもと、各種の健全育成活動を積極的に推進していく。							
目的や内容	青少年が家庭や学校以外でも同世代の青少年や異年齢の人々と交流し、自主性や社会性を育てていくことができるよう、放課後子ども教室の開催及びPR活動の推進を図り、放課後や週末における青少年の居場所づくりを充実させる。地域の指導者により、放課後の小学生を対象にいろいろな体験・経験をする教室を開催する。							
実績等	ペットボトルロケット・そうめん流し・和太鼓・3B体操・ゲートボール・パステルアート・書道・お菓子作り・凧づくりなど開催回数を年24回から28回へ増やして教室を実施し、総数354名の参加者があった。							
成果と課題	開催回数は、前年度より増えたものの、参加者は444名から354名と減少した。主に毎週土曜日の午前中に町民センターで実施しているが、町民センターから遠い子どもたちは本人のみでは来れないので、実施場所や実施曜日時間を検討しながら実施してみることとしたい。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		実施回数を増やしたが参加者数を増やすことはできなかった。前年度に比べて、事業内容は充実したものとなっているが、参加者の増加に向けて再度、内容を検討していく。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		活動内容の充実とともに、児童が参加しやすい場所や時間帯を検討してほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ施設の整備充実			
事業名 ・ 取組名	スポーツ施設の整備・運営			所管課	生涯学習課			
				費目	体育施設費			
事業費 (千円)	37,471	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
						2,470	35,001	
目標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。							
目的や内容	中央公園や体育センターをはじめとする各スポーツ施設(プール・武道館・テニスコート等)について、老朽化への対応や利用促進に向けた施設・整備の建替も含めた検討を行い、改修等を計画的に進める。 また、管理運営体制の充実を図り、利用者数の増加に向け、利用者が利用しやすい環境整備を進める。							
実績等	町民プール床やロッカールーム、中央公園の大型遊具補修工事、体育センタースポットエアコン設置工事、中央公園トイレ洋式化改修工事等、15,578千円の工事施工を行った。							
成果と課題	施設の修理は、利用者の安全を一番に考え修理を行うことができた。引き続き日頃の点検を継続的に行い、早めに対応できるようにする必要がある。 利用者数を増やすために、平日の昼間の施設利用について利用者へ広報活動を強化することが必要である。 社会体育施設建物損耗調査業務委託により、昭和51年度建築の武道館、体育センターの改修計画を作成する必要がある。							
自己評価	評価の結果	評価の理由						
	達成	計画どおりに修理できた部分は一定の評価ができるが、安全管理の面で施設の老朽化が進んでいるため、修理必要な部分も生じており、その対応が必要である。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項						
	達成	施設の老朽化に対し、年次計画を早めに作成し、見直しをもって対応してほしい。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	スポーツ団体・指導者の育成			
事業名 ・ 取組名	スポーツ団体や総合型スポーツクラブへの支援			所管課	生涯学習課			
				費目	保健体育総務費			
事業費 (千円)	3,157	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							3,157	
目標	近年、町民の健康・体力づくりに対する関心がますます高まる中、町民のスポーツニーズは増大・多様化の傾向にあるため、すべての町民がそれぞれの年齢や体力に応じたスポーツ活動を行うことができる環境づくりを進める。							
目的や内容	<p>体育協会をはじめ自主的なスポーツ団体の育成・支援に努めるとともに、新たな指導者の発掘・活用に努め、町民の自主的なスポーツ活動の活発化を促進する。また、総合型スポーツクラブが自主運営組織として定着し、活発な活動が行われるよう、運営やクラブリーダーの育成について助言・支援を行う。</p> <p>町内14種目の競技団体797名の体育協会においては、各種目競技団体への運営補助、県民体育大会種目の選手の確保や出場手続き、町民体育大会の運営など、本町におけるスポーツ振興の中心的な組織として貢献している。総合型スポーツクラブ「ふれあい友遊かみみね」については、子どもから高齢者の方まで、多世代交流、心と体の健康、生きがいと青少年の健全育成を目指し週4日開催している。</p>							
実績等	<p>体育協会については、各種目団体によりスポーツ大会の開催、県民体育大会への出場調整、町民体育大会への役員参加など、スポーツ関係について、活発に活動した。</p> <p>また、「ふれあい友遊かみみね」についても、計画どおり週4回実施し、会員150名と昨年とほぼ同人数を維持している。</p> <p>事業費の内訳としては、体育協会へは活動費817千円と県民体育大会補助金1,741千円、「ふれあい友遊かみみね」に対し599千円の補助を行った。</p>							
成果と課題	<p>体育協会においては、各種目団体の連絡調整がうまくできているが、事務を行う人材の不足など運営の在り方の検討が必要である。「ふれあい友遊かみみね」については、町の補助金に頼らない3年後の自主運営に向けて会員増に取り組んでいる。今後もニーズに沿った事業の見直しを行いながら検討していく必要がある。</p>							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		体育協会や「ふれあい友遊かみみね」との連携をこれまで以上に密に行い、町民の健康増進にどう関わっていくか考える必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		生涯スポーツの観点から、年齢や体力に応じたスポーツ活動ができる環境が整備されることを期待します。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化芸術の鑑賞会と発表会の充実			
事業名 ・ 取組名	上峰町文化祭			所管課	生涯学習課			
				費目	社会教育総務費			
事業費 (千円)	807	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							807	

目 標	文化協会等と連携し、町民文化祭の内容充実に努めるとともに、多様な文化・芸術を鑑賞する機会と活動成果を発表する機会の充実に努める。
-----	--

目的や内容	文化協会の22サークルが日頃から活動していることの最大の発表の場が町文化祭であり、各サークルの目標ともなっている。この文化祭をより盛り上げるために、幼稚園児・保育園児、小・中学生、和太鼓、よさこいなど文化協会以外にも町民参加型により、多くの町民が発表会や展示会に参加できる楽しい文化祭を目指す。
-------	---

実績等	11月1日(町制施行30周年記念式典)～4日の4日間で第33回町民文化祭を開催し、作品展示では絵画、写真、書道、生け花、編み物やアートフラワーなど約1,000点の作品の出展があった。演芸発表では、40演目で前年度より200名以上増加の650名の方々が熱演し、来場者も前年度より100名程増加の約2,000名であった。 文化協会との事前打合せや連携がとれスムーズに運営ができた。費用としては、文化協会への補助金307千円、文化祭パネル設置費用500千円であった。
-----	---

成果と課題	文化活動の発表の場として、町民文化祭が賑やかに開催され、町民全体で元氣と感動を分かち合う行事となっている。 文化協会の会員数が毎年減少しているのが現状で、新たな加入者をどうするか、また、新たな文化・芸術団体の発掘が課題である。
-------	--

自己評価	評価の結果	評価の理由
	達成	発表会や展示会は計画どおりにできた。また、多数の出演者や展示出品者とともに、多数の観覧者に来場していただいた。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項
	達成	町制施行30周年記念事業と併せた文化祭の設定、作品展示や演芸発表、来場者の増加など充実した事業になっている。
	概ね達成	
	やや不十分	
不十分		

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	生涯学習関連の適正管理・利用促進			
事業名 ・ 取組名	ふるさと学館の充実			所管課	文化課			
				費目	ふるさと学館費			
事業費 (千円)	10,524	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
						17	10,507	
目標	管理運営体制を拡充し、展示内容の充実や企画展・特別展の開催、学校教育との連携、各種歴史・文化講座・読み聞かせ講座の開催等を進め、本町の歴史・文化の研究拠点、情報発信拠点として機能の強化を図る。							
目的や内容	町民のニーズに即した蔵書の充実 子どもの集いの場、生涯学習拠点として機能強化を図り、幅広い年齢層へのサービスの提供をし、利用者増を図る。							
実績等	蔵書の購入冊数は、図書購入費が平成27年度(1,500千円)・平成28年度(2,100千円)・平成29年度及び平成30年度(3,100千円)と予算を上乗せした結果、蔵書冊数は平成27年度(55,782冊)・平成28年度(56,030冊)・平成29年度(56,643冊)・平成30年度(56,630冊)と増加した。新書、リクエスト本を今まで以上に購入可となり貸出冊数(平成28年度42,750冊・29年度42,352冊・30年度40,985冊)でまちづくりプランの平成33年度目標(貸出冊数40,000冊)を超えた数字となっている。しかし、利用者数(平成28年度8,763人・29年度8,325人・30年度7,801人)は減少した数字となっており、まちづくりプランの平成33年度目標(図書館利用者数8,200人)を下回った。							
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書数は変わらないが、貸出冊数と利用者が減少している傾向をみて、県事業の子どもが本に親しむ環境づくり推進事業(読み聞かせ講座・読み聞かせスキルアップ講習会・読み聞かせノート配布等)への取り組みや町で読み聞かせ教室の開催をし、「家読」の促進を図る。 ・乳幼児健診時にブックスタートや読み聞かせ教室のPRを行って利用者増を図るとともに、小学校新1年生を対象にしたセカンドブック事業の企画をはじめ本を読む習慣と楽しみを子どもたちに広げ、学校図書室や町立図書館の利用を促す。 ・各家庭での読書習慣の定着を図る。 ・現在小中学校2ヶ所団体利用登録を社協等3ヶ所増加を目指す。 							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		購入冊数が増加し、目標蔵書数に達している。 蔵書数は、目標に達しているが、利用者は減少している。 「家読」を推進し、ブックスタート等幅広い年齢層へサービスを提供しなければならない。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者評価	評価の結果		乳幼児から成人に至るまで、幅広い年齢層を対象に充実した図書館運営を図ってほしい。					
	達成							
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	町内遺跡確認事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	3,561	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			1,700	612			1,249	
目 標	指定文化財の適正な保存及び維持管理に努めるとともに、その他の文化財や埋蔵文化財についても、調査体制の充実のもと、発掘調査等を推進し、その保存・活用を図る。							
目的や内容	町内全域で事前の埋蔵文化財確認調査を実施。この調査により開発対象地区内の埋蔵文化財について概要を把握し、開発と埋蔵文化財保護との調整を図る。							
実績等	開発届出等件数41件、確認調査実施件数21件。遺物の検出件数0件。 また、国庫補助事業の適用を受け平成元年度から実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成29年度分の調査について整理作業を実施し、調査報告書を刊行した。							
成果と課題	確認調査によりピット、土壌が検出され、古代から中世の集落跡と考えられるが、遺物は検出されなかった。 今後課題として無届着工がある。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		開発に伴い、事前の埋蔵文化財確認調査を行い、文化財保護との調整を図った。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		今後とも、文化財を将来にわたって保存・活用するために、適切な調査等を行ってほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	天然記念物『八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林』天然記念物史跡等保存活用計画策定事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	2,530	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
			1,207	434			889	
目標	天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 に係る整備については、周辺整備を含めた将来の保存公開を視野に入れ、保存公開施設までの全体的な保存活用計画を策定した上で、保存整備事業を進める。							
目的や内容	天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 に係る保存整備事業を進めるにあたり、有識者からなる保存活用計画策定委員会を組織し、委員会の指導を仰ぎ、太古木の保存活用計画を策定する。 本年度は、保存公開施設の整備、有機遺体の保存処理方法などの問題点について検討整理する。後上峰町が事業主体となり当該文化財の保存整備・活用事業を実施していく上で、より効果的な事業の実施に向け、平成29・30年度の2カ年で保存活用に係る全体的な事業計画を策定した。							
実績等	平成30年7月28日、今回の保存活用計画策定に係る第3回「太古木保存活用計画策定委員会」(以下、「委員会」。)を開催した。平成29年度に抽出、整理した保存活用に係る現状と課題について確認を行い、保存活用計画書(ダイジェスト版)を事務局案として提示し、その内容及び今後の作業工程について協議、検討を行った。第3回委員会における各委員の指導、意見等をもとに保存活用計画書(案)を事務局にて作成した。 平成30年12月18日、第4回委員会を開催した。事務局で作成した保存活用計画書(案)の内容について協議、検討を行い、再度各委員の指導、意見等をもとに保存活用計画書(案)を作成、『天然記念物 八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林 に係る保存活用計画書』として印刷、刊行した。							
成果と課題	2ヶ年継続事業の初年度である平成29年度は、有識者および町関係者からなる「太古木保存活用計画策定委員会」を組織し、文化財の保存活用計画策定の前提となる当該文化財が抱える現状と課題について、2回の委員会をとおして協議、検討し一定の整理を行うことができた。 委員会の開催にあたっては、専門業者に委員会支援業務として関連先進地事例の情報収集や資料の作成等の業務を委託し、より円滑に事業を進めることができた。 2年次目の平成30年度は、保存活用計画策定に向け、平成29年度の作業の成果を踏まえ、引き続き委員会の指導、助言を受けながら計画書の取りまとめ作業を実施し、計画書を刊行した。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		文化財の保存活用計画策定の前提となる当該文化財が抱える現状と課題について、2回の委員会をとおして協議、検討し保存活用計画書を刊行することができた。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		策定された保存活用計画に基づき、整備事業を進めてほしい。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	民俗芸能等伝統文化事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	421	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							421	
目標	米多浮立やみやき町西乃宮などの無形民俗芸能等伝統文化財について、保存団体の育成・支援や環境整備等を行う。							
目的や内容	米多浮立やみやき町西乃宮などの無形民俗芸能等伝統文化財について保存団体の育成を行い、積極的な保存・伝承に努める。							
実績等	<p>○米多浮立保存会ライセンス使用料 353千円 米多浮立保存会へこれまで奉納経費等について、町補助金を交付してきたが、平成27年度よりこれまでの補助を休止し、「天衝米」の名称使用に伴い、ライセンス使用料を支払うこととした。</p> <p>○10月28日維新博「上峰町の日」において子ども浮立を行った。</p> <p>○10月8日第1回佐賀県伝承芸能祭へ参加した。</p> <p>○みやき町西乃宮伝統文化保存会補助 68千円 西分地区で浮立奉納され、本分地区で稚児舞が10月21日に奉納された。</p>							
成果と課題	後継者不足で出演者が不足気味の状況である。特に、中高生をはじめ若手の後継者育成が急務である。							
自己評価	評価の結果		評価の理由					
	達成		保存団体の育成として、「天衝米」の名称使用に伴い、ライセンス使用料を支払っている。また、補助金によるみやき町西乃宮伝統文化保存の育成を行った。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果		意見・指摘事項					
	達成		伝統文化継承の担い手育成のため、具体的な手立てを講じる必要がある。					
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

平成30年度主な事業・取組の評価シート				主要施策	文化財の保存・活用			
事業名 ・ 取組名	町史編さん事業			所管課	文化課			
				費目	文化財保護費			
事業費 (千円)	6,479	財源	国庫	県費	地方債	その他	一般財源	
							6,479	
目標	本町の貴重な歴史・文化や風土を次世代に継承していくため、町史編さん作業に取り組み、新たな町史を刊行する。							
目的や内容	代々先人たちが築きあげてきた伝統的・歴史的なものの多くが記録や保存されず失われていく前に、特に昭和54年村史編さん以降本町が歩んできた道程を詳細に調査するとともに資料の収集・保存を図り、歴史的特長をより鮮明にし、一般の方が平易に理解できるような『上峰町史』を発刊することで町への認識が一層深められ、今後のより良い町づくりに寄与することを目的とする。							
実績等	編さん委員会を単独で1回、編さん委員会及び編集部会(執筆委員会)合同で2回開催し、町史基本計画・執筆要領・年次計画を作成した。また編集部会(執筆委員会)単独で4回開催し、目次検討・調査収集方法・原稿作成を諮った。なお、運営上の支援(会議資料、議事録作成等)及び資料調査の業務委託を行った。							
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○『上峰町史』執筆要領、目次を協議検討し方針の確定をする。 ○各委員の調査、資料収集を促し、原稿執筆にかかっているが、委員の原稿執筆後の編集が課題となる。 ○現代分野での行政の協力が必至になる。 							
自己評価	評価の結果	評価の理由						
	達成	『上峰町史』編さんに向け、編さん委員会で目次検討・年次計画・執筆要領を諮りながら、編さん部会(執筆委員会)で調査収集方法・原稿作成方法を審議した。現在は原稿の遅れは多少あるが、計画通りほぼ進んでいる。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								
学識経験者 評価	評価の結果	意見・指摘事項						
	達成	特になし。						
	概ね達成							
	やや不十分							
不十分								

